音楽は、ひとの心を解きほぐす力を持つ
ジェンダー・アイデンティティーも自由であっていい

一五一会ミュージシャン
会津 里花さん

数年前、私は孤独に苦しみ、自暴自棄になっていた時、自助グループの縁で初めて会津里花さんの演奏を聴きました。ギターと三味線を融合させたような楽器、「一五一会」を弾きながらの彼女の歌。それは、東日本大震災で残った岩手県陸前高田の「奇跡の一本松」の映像をテレビで観て作ったという「ヒマラヤスギ」という曲でした。会津さんの澄み切った歌声が私の心を捉えました。

会津里花さんが性的マイノリティであることを公表して 10 数年。音楽活動を通じ、性的マイノリティの人権保護活動に積極的に取り組んで来た会津さんに、楽器「一五一会」との出合いと音楽について聞きました。

Q.「一五一会」との出合いを聞かせてください

楽器店の階段を昇った正面にあった『世界一簡単な楽器・・・一五一会』のポスターに、釘づけになりました。これだ！と直感しました。弾いてみて音色にハマり、以来ずっと弾き続けてきました。

２００２年、遠ざかっていた社会参加への手始めとして、芝居か音楽かどちらにしようかと迷っていました。仕事に生きるために邪魔と考えて、10年も音楽活動から遠ざかっていたからです。２００３年にギターを使った弾き語りを始めました。当時は、ビートルズの曲を歌っていました。そんな時に「一五一会」に出合ったのです。

白紙の状態から「一五一会」を始めたからこそ、続けられたと思います。ジェンダーにも通じる話ですが、あらかじめ自分が思い描く観念がなかったからこそでした。

Q.「一五一会」と出合って変わったことはありますか？

「自分の音楽を作りたい！」と思えるようになったことです。音楽活動休止前は、ビートルズ・コンサートなどを毎年、開催していました。弾く曲すべてが他人の曲で、求めるオリジナリティーとは、かけ離れていました。

出合ってからは、他人にない自分だけの曲を弾いています。また、「一五一会」の弾き方を教えることで、色々な楽器の歴史や変遷に興味がわいてきました。

Q.会津さんの音楽活動への想いを聞かせてください。

その場にいる観客と気持ちが一体化できたら、と思いながら演奏活動をしています。小学生の頃は音楽を生業にする気持ちはありませんでした。明治末生まれの父の音楽への差別的な言動も一因でした。音楽で食べていくことへの風当たりが強い時代で、“音楽をやってはいけない”と思っていた時期もありました。色々な仕事に就きながらも、音楽への想いが断ち切れませんでした。が、今では『人を動かすのに音楽は不可欠』と思い、胸を張って音楽をやっています。

Q.会津さんがこれまで影響を受けたミュージシャンは誰ですか。

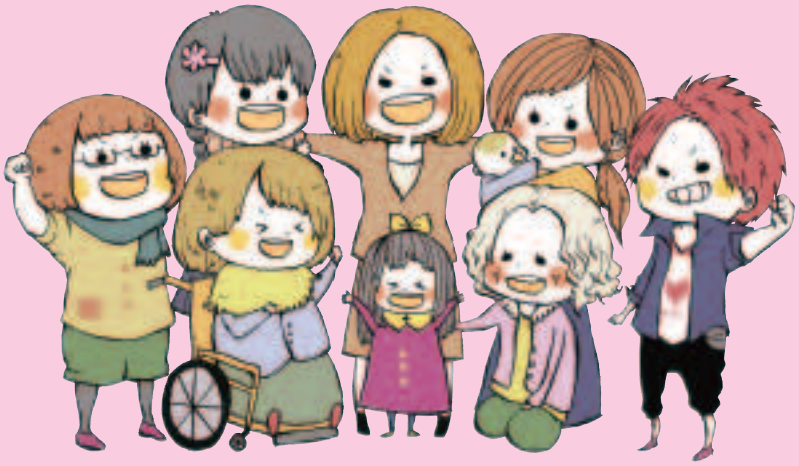
阪神淡路大震災の後、被災地で演奏活動をしていたソウル・フラワー・ユニオンというミュージシャンの活動にとても感銘を受けました。彼らは被災地を訪問、避難所などの支援をしていました。被災地での活動を通して生まれた「満月の夕べ」という曲が有名です。その歌を聴いて「初めて泣けた」と、被災者から言われたそうです。それまで悲しみを心の中に閉じ込め、何とか頑張ってきた人達が、歌を聴き、自分の気持ちをさらけ出すのを見ました。感情を表すことが大切だと思いました。

このように、音楽はひとの心を解きほぐす力を持つ、「レトロ・コミュニケーションツール」だと思っています。２００３年５月、トランスジェンダー・アイデンティティーについても自然に表現することが大切だと確信し、私は公表を決意しました

（インタビュー：海野陽子）

女性同士の相互理解

－真の多様性（ダイバーシティ）社会へ向けて－



世界から先進国と評価される日本。しかし、男女間格差においては 145 カ国中 101 位の後進国(*)だということを知っていますか。

同指数の上位 5 位を独占するのは、北欧諸国。フランスやカナダでは、閣僚が男女同数の内閣が発足。また韓国でも女性定数制（クォータ制）の選挙導入など、各国が先行する中、日本での実現はほど遠く、そもそも「女性の活躍なんてムリ！」と感じる人も多いでしょう。

それもそのはず、日本は性別による役割分担習慣がまだまだ根強い国。男女共に世界最高水準の教育を受けながら、「男性は仕事、女性は家庭」「政治や組織の意思決定は男性、女性は補佐」と、多くの女性たちが役割を固定化されてきました。女性たちの能力や意思が反映されにくい歴史的経緯がありました。さらに「女の敵は女」という声もしばしば、耳にします。

そこで考えました。誰もが輝く多様性（ダイバーシティ）社会実現の前に、男女共同参画社会実現の前に、そもそも「女性同士の相互理解」が必要なのではないかと。より多くの女性たちが輝く社会に向けての、「根っこの問題」と「解決策のカギ」がここにあるような気がします。

まずは女性同士がお互いが直面する状況を励ましあい、力に変える。そして男女共に助け合い、一人ひとりが個性ある人間として活躍できる多様性社会へ。Yes, We Are Sisters!!

（本文・詩　園部　真由美）

＊2015 世界経済フォーラム グローバル・ジェンダー・ギャップ指数（世界男女格差報告書）

Yes, We Are Sisters!!

ねえ　聞いて

私たちを
「女性」という
一つの「枠」に　入れないで

私たちは
女性であるけど　その前に
一人ひとりが　「個性ある人間」

けれどもね
「女性」として　あるがゆえ
「産む性」として　あるがゆえ
人生に
波が生まれて　しまいがち

成長・学業
就職・仕事
結婚・離婚に事実婚
妊娠・出産・子育て・キャリア
障害・健康・LGBT
介護に更年期
DV　そして　母娘問題…
けっこうみんな　抱えてる
けっこうみんな　ツライのね

一人ひとりの人生は
女としても　多様だし
個人としても　多様なの

そもそもね
「女性活躍」って　言うけれど
女性が活躍できる　エリアって
社会に半分　あるかしん？

まだまだ狭い　その中で
「生きよ！」って
けっこう　ツライじゃない？

でも　もしね
そこで遠慮し　争えば
私たちの
本当の力は　生かせない

なによりも
「違う立場」の　がんばりを
互いに　共に　認めたい

いつの日か
いずれ　私も　その立場？
「なるかも？」的な人生じゃ？（笑）

今ここに　私の人生　あるように
今そこに　あなたの人生　あるように

誰でもが
人生通して　支え合う
互いの苦労を　いたわれる
そんな社会に　生きたいの

Yes, We Are Sisters!!
例え立場が　違っても
私たち　女性はみんな　姉妹なの

Yes, We Are Sisters!!
「一人ひとり」が　手を取れば
もっと拓ける　可能性

Yes, We Are Sisters!!
私たちの　未来には
「みんなの笑顔」　あふれてる

多様性（Diversity）を認める社会とは？ 外国人の目から見たオーストラリアと日本

路上で『THE BIG ISSUE』を販売するホームレスだった男性と筆者

過激派組織IS『イスラム国』が世界各地で引き起こしたテロやシリアでの内戦は、シリア難民を生み、殺戮と報復の連鎖という厳しい現実を私たちに突きつけることになった。21世紀になって増加したテロや紛争の背景には、これまで多くの移民を受け入れてきたEU諸国の移民政策が持つ負の部分が大きく関わるのではないかと言われる。異なる宗教観や慣習に基づく移民への根強い差別、教育・雇用・貧富の格差拡大で希望の持てない移民2、3世の増加である。その結果、ISの巧みな勧誘に引き込まれたとする見方だ。

遥か遠い極東に住む私たちは、遠く離れた中東や西欧の出来事を対岸の火事として、見過ごすことができるだろうか。グローバル化が進み、人の移動がますます増え、少子高齢化の進む日本では、近い将来、外国からの労働者の受け入れも進むことであろう。また、世界の潮流で難民問題に取り組む必要性も生まれるであろう。

そこで、「社会の多様性（Diversity）」について、移民大国オーストラリアでの筆者の体験と長年、日本に住む外国人から見た日本の多様性について考えてみた。

どこから来たの？ 一度も聞かれなかったのは？

2015年夏、私は、6歳と3歳の孫とシドニーの中心部に近いプールのジャグジーで時を過ごしていた。午後3時を過ぎると、湯船の中は、仕事帰りのオバちゃんや中・高生でまるで銭湯のように混み合っていた。スペイン語、ロシア語、中国語、あるいは、知らない言語も飛び交っていた。そのうち、オバちゃんの一人が孫に、「いくつ？」「泳げるようになった？」「お菓子は何が好き？」といった質問をなまりのある英語で聞いてきた。二人の孫は、恥ずかしがってモジモジしていた。

一方、スーパーに行くと毎朝、アフリカ系のオバちゃんが孫に「おはよう！　お手伝いをするとは、良い子だね」「何かいいもの見つかった？」と声をかけて来る。旅行中、多くの人々が子どもに優しく声を掛けてくれたが、ただの一度も「どこから来たの？」という日本ではお決まりの質問がされなかったことに帰国後、気がついた。

オーストラリア人の多くは、世界200カ国の国々から渡ってきた移民の子孫である。そのため、先住民アボリジニをはじめ、様々な民族、文化、言語、宗教など多様性を持つ人々で構成される社会でもある。国民の4人に1人が外国生まれと言われる中で、この10年、中国、インド、アフリカ、中東諸国からの移民が増加している。そんな移民大国では、「ドコで生まれ、ナニ人であるか」なんて話は、どうでも良いことなのかもしれない。

移民大国ならではの移民政策の光と影

オーストラリアの若者がデモで掲げる旗

オーストラリアでもテーマは子どもの貧困

年間約19万人の移民を受け入れるオーストラリアの移民政策には、「違いのあることの認識と尊敬」、「すべての人に対する機会の提供」、「多様性の称賛とその活用」とダイバーシティの考え方が基礎にある。移民に英語を習得させ、職業訓練や就職を斡旋することがオーストラリア社会の利益に繋がると考え、移民の子弟への教育補助プログラムも盛んだ。そのため、シドニー在住の日本人の話では、医師のほとんどが中国系やベトナム系で占められる病院もあると聞く。つまり、移民が成功するには、学歴を付け、付加価値の高い職業に就くのが近道と、学業に専念する移民の子弟が多いのである。

一方、言語教育も充実する。初等・中等学校では、150もの外国語を学ぶことができる。その中には68の先住民の言葉や日本語、中国語、インドネシア語、韓国語、ベトナム語、アラビア語などもある。英語だけではなく、広く言語を学ぶことで、移民で構成される多様性社会の理解を深めようという狙いである。この他にも医療保険など、移民への取り組みは厚い。

しかし、どの社会でも建前と現実とのギャップは大きい。シドニー中心部にあるスーパーの入り口には、地面にひれ伏す物乞いの姿やホームレスを多く目にした。また、月2回発行されるホームレスの自立を支援する雑誌『THE BIG ISSUE』の特集は、「HELPING AUSSIE KIDS GET A FLYING START」である。5年間で2万人の貧困層の子どもたちに教育を受けさせることで、貧困サイクルの連鎖から抜け出すことができることを呼びかけている。

オーストラリアのようなダイバーシティ社会は、年齢や性別にかかわらず、等しく機会が与えられる。そのため、教師はリタイアをせず75歳まで働き、若者は非常勤という現象が起き、若者の失業率も高い。またオーストラリアでは、ペイエクイティ（同一価値労働同一賃金）制度が早くから導入されている。しかし、実際は、児童保育、高齢者介護、病院業務、販売、清掃など、女性が多数を占める低賃金部門や常勤の男性労働者に限られる場合が多い。常勤労働者の男女賃金格差は、直近2年間で1％縮まったが、格差を是正するには、あと20年はかかると言われている。

滞在中、アボット首相（2015.9.14退陣）が同性婚を認める法案審議に圧力をかけたことを批判するLGBTの人たちや政権に批判的な若者のデモをたびたび見かけた。

私の目には、オーストラリアは、新たな権利獲得のために行動を起こす市民社会であると同時に、ダイバーシティであるがゆえに自己管理と責任が強く求められる社会にも映った。

（齋藤　典子）

日本のことは外国人の目で見てもらうのが一番！

外国人に聞きました！

日本は多様性（Diversity）を認める社会ですか？

マリーさん　女性　出身国：フランス
使用言語：フランス語、英語　滞日年数：25 年

1. 私は、日本社会がより開かれてきたと思います。少なくとも東京では。
例えば、
・まだ入国管理法は選択的ですが、かつてより多くの助け（住宅、健康、学校教育など）が入手可能な国になった。
・LGBT の人は現在、東京・渋谷など、幾つかの地域では許容されている。
・国際化が進んだもの：結婚、スーパーマーケット、レストラン、書店、医学サービス。

2. 日本社会で生活していく上で一番、困難だと感じることは次のことです。
・私は、観光客として誰も知らない日本に来た。住宅はその時、本当に問題であった。日本人の保証人、敷金、大家さんが外国人を受け入れてくれるか…など。
・事務手続きもまた困難を極めた。英語の翻訳はない上、英語を話すスタッフもいなかった。
・私は現在、永住権を持つが、まだ投票権を持っていない。
・日本人と結婚する外国人は「住民票」で同じファミリーファイルに登録されるが、私の夫（日本人）が中国で仕事をし、長女が 18 歳の時に彼女が受け取った住民登録には、私の名前が掲載されていなかった。

3. 日本がダイバーシティの認められる社会になるためには何をすべきですか。
・なぜ、「外国人」に自由に門戸を開かないか?恐れ、好奇心の不足、国の政治的／経済的な不安定さ…
・門戸を開くためにはどうしたら良いのか。若い時から「外国」について教育をすること。
・政府による強い政治的方針。
・日本人は、日常生活において、外国語（私は英語だと考える）にもっとさらされるべきだと思います。なぜ英語の綴りの上にカタカナを置くのか疑問です。

ポエットさん
男性　出身国：アメリカ
使用言語：英語 日本語　滞日年数：30 年

1. 現在、日本社会はどれくらい多様性を認めていると思いますか。
私が知る日本人の多くは寛容さを持ち、あまり偏見がなさそうです。もちろん、そうではない日本人もいます。
「多様性」と言う表現は、広い意味合いがあります。少なくとも、7 種類の「多様性」があります。（1）言語的多様性（2）宗教的多様性（3）人種の多様性（4）ジェンダーの視点多様性（5）年齢の多様性（6）服装や流行の多様性（7）セクシャリティの面から多様性です。それぞれ、人はこれらの多様性の種類によって「オープン」か「閉鎖的」のように見えるでしょう。
例えば、私の日本人の同僚の多くは、(2) や (3) や (7) について非常に受け入れますが、(1) や (5) や (6) については、考え方が固く閉鎖的と言えます。

2. 日本社会で生活していく上で一番、困難だと感じることは何ですか?
この質問に答える事は、非常に困難です。なぜなら、年齢、ジェンダー、社会的地位、民族、言語能力、与えられた時間、着る衣類など、複数のファクターによって変化するからです。
白人の年配大学教授として、私はむしろ、私の社会的なポジションが多くの点で特権を与えてくれることを認めますが私はたびたび、日本社会から隔離されると感じることがあります。
しかし、このことは、私をそんなに煩わすことにはなりません。私は、アートや詩、少数の親密な友人が存在するからです。
私は他からの受容も「拒絶」もどちらも予期していません。より重要なのは、私自身が受容することを学ぶことです。それは進行中の挑戦です。私は否定でいっぱいになる自分が時々好きではありません。しかし幸運にも、私は、ユーモアのセンスと、ありのままの私を受容するよい友人を持っています。

3. 日本がダイバーシティの認められる社会になるためには何をすべきですか。
私は日本に住む 100 万を超える外国人の 1 人ですので、この質問への完全な答えを知っているわけではありませんが、あえて言うなら、私たち自身が『受容』を学ぶことだと思います。
インドの賢者は「種が木全体を含む様に、個々の人々が宇宙全体を包含する」と言いました。男対女、老対若、豊さ対貧しさ、支配対従属、人生の極性のすべてが私達の中に存在します。
私達は、私達自身の多様性、あるいは私達の持つ否定性を容認することで、より受容する必要があるのではないでしょうか。安寧な人は、他者を犠牲にしたり、利用したりする願望をほとんど持っていません。

ミティさん　男性
出身国：カナダ
使用言語：英語　滞日年数：14 年

1. 現在、日本社会はどれくらい多様性を認めていると思いますか。
私は、今日の日本社会が民族、言語、宗教、ジェンダー、政治、人種に関して北アメリカ社会より以上に多様性を受け入れていると思う。なぜなら、日本は、生活様式など、様々な観点で受容することをいとわなかったからである。

2. 日本社会で生活していく上で一番、困難だと感じることは何ですか?
私が日本に住んでいて最も難しい局面は、言語に挑戦しているときである 。これはもちろん、私自身の欠点であり、この国に滞在して長いのにもかかわらず、このような貧しい日本語を話すことを非常に恥ずかしく感じる。

3. 日本がダイバーシティの認められる社会になるためには何をすべきですか。
幼い時からの国際教育が日本の多様性（diversity）をより、受容しやすくすると考える 。

ナマステさん　男性　出身国：ネパール
使用言語：日本語、英語、ネパール語、ネワリー語 他
滞日年数：24 年

1. 数年前から日本社会もダイバーシティが認められる社会に変わりつつあると思う。
例えば、
・日本の大企業であるトヨタ、日産等のトップの地位に外国籍の方がいること。
・私が留学生だった頃、アルバイトの求人募集でも外国人というだけで、アルバイトを断られた経験があった。最近は外国人を積極的に採用する動きがあること。
・日本の都道府県も外国人の定住推進をしていること。
・いろんな職場でも女性の幹部社員を増員していること。

2. 日本社会で生活していく上で一番、困難だと感じることは次のことです。
・日本の物価が高い。
・賃金と物価のバランスが合っていないような感じがする。
日本では日常品（米、野菜、肉、豆）の値段が高すぎ、逆に衣類の方が安く感じる。
・法律が曖昧（いろんな法律、ルールは人に伝わりにくい）。

3. 日本がダイバーシティの認められる社会になるためには何をすべきですか。
・日本で女性リーダーと女性国会議員の数を増やすべき。
・女性が子どもを生んだ後も継続して安心して働ける環境を作って行く必要がある。
・外国籍の方も条件付きで選挙権を与えるべき。

ジュリーさん
女性　出身国：アメリカ
使用言語：英語 日本語　滞日年数：26 年

1. 現在、日本社会はどれくらい多様性を認めていると思いますか。
私の個人的経験から言うと、非常に多くの部分で多様性を認めていると思います。もちろん、外国人恐怖症の人もいるかも知れませんが、全体的に見ればとても好意的です。 とはいえ、LGBTQ の人は、例外的です。また白人は黒人より、厚遇されることも耳にしました（私は白い）。もし、違いを知りたいのなら、回答者に民族的特性も尋ねるべきでしょう。さらに、回答者の子どもが「混血」かどうかも尋ねるとよいでしょう。 私は、日本では「混血」の子どもがいじめを受けると、何人かの両親が不満を口にしているのを耳にしたことがあります。

2. 日本社会で生活していて一番、困難だと感じることは何ですか?
一つは、漢字を学習するのが非常に難しいことです。私は非常に遅く、中年になってから始めました。すべての漢字とその読み仮名を記憶するのは、とても多くの時間と努力を必要とします。そして、漢字の意味を覚え込むのに、多くの時間かかります。私はよい先生を見つけることができなかったので、一人で覚えました。
二つ目は、職場である大学です。時間の融通が利かない長時間勤務は、女性にとってバランス的に不可能です。女性は、仕事以外にも多くの責任を持っています。また健康上に問題があるなら、仕事と家庭の両立を図りながら、働き続けることは、困難です。長時間労働が可能な男性だけが、主要な労働者であるという考え方は、不合理です。障がいのある人々や多くの女性たちの才能を無駄にし、ひいては、日本の労働力を無駄にすることになります。私は、このような長時間労働を改めることが日本の国の男女平等を促進し、先天性あるいは後天性の障害のある人の就労を容易にする一つの方法だと考えます。

3. 日本がダイバーシティの認められる社会になるためには何をすべきですか。
私は、明らかに外国人ですが、女性と障害を持つすべての人の声を代弁しているわけではありません。しかし、私は、主に女性が仕事と家庭生活 / 家族とのバランスをうまく取ることで、多くの障害を克服できるかもしれないと考えます。
また、日本語と文化をマスターした外国人がテレビのバラエティーショーや日本のスポーツチーム、相撲などで多く見かけるようになりました。彼らは外国人のよい役割モデルです。しかし、最も重要な点は、これらの役割モデルが全て男性で、しかも白人男性／あるいは、白人の男性道化師ではないということです。同じようにより多くの日本女性の役割モデルが必要です。
そして、日本人を含むどんな背景の LGBTQ の人も偏見に打ち勝つためのパワーが必要だと考えます。

参考サイト
Australian Embassy, Tokyo　http://australia.or.jp/aib/people.php
Australian Human Rights Commission　http://www.humanrights.gov.au/
National Foundation for Australian Women　http://www.nfaw.org/

アンケートの質問事項

1. 民族、言語、宗教、性別、政治、人種において、現在、日本社会はどれくらい多様性を認めていると思いますか。
2. 日本社会で生活していて一番、困難だと感じることは何ですか?
3. 日本がダイバーシティの認められる社会になるためには、何をすべきでしょうか?

きる
おう、私たち

本当に大切なものを求めて

今回私たちが取り上げた問題は、新聞やテレビで毎日のように話題になっていた。働くという人の基本的なところで、大きな転換期にあると思えた。働いて、お金を稼いで、生活するという当然な営みが、すべての人に可能な社会はどこにあるだろうか？　一番大切なココロから取りもどしてみては、どうだろうか。

The Future Of Diversity（多様性が拓く未来）

一人ひとりに違った悩みや苦労、ハンディがある。個性や特技、感性がある。その全てを「可能性に変えること」がダイバーシティ。より多様な視点が集まれば、よりいいものが生まれることは間違いない。今まで主流に乗れず届かなかった声にこそ、きっと問題解決の大きなヒントが。

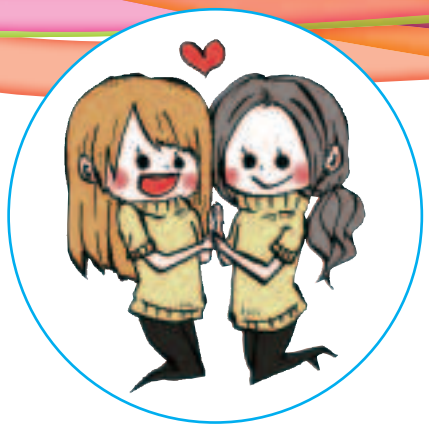
みんなの声で拓こう未来！

ソーシャルアクションへの第一歩を踏み出そう

少子高齢化問題、様々な格差、増え続ける自殺者…。いつから日本は、生きづらい社会と感じるようになったのか。私が向き合った「子どもの貧困」問題も、社会の歪みが現れたものだ。しかし、嘆いてばかりいても始まらない。まずは、様々な社会問題に関心を持ち、気づくこと。私たちの気づきが行動を起こす一歩へとつながる。

取材を終えた編集員のつぶやき

自分らしく生 認め合



暗いニュース、好きですか？　もっと明るい社会へ!

人類の命は、一人ひとりが尊い。
生き方が、全く同一の人はいない。
相手の個性を敬い合うからこそ、自分ならではの人生がある。
マイノリティ、LGBT、障がい、差別、偏見、苦悩、葛藤…。
これら、世の中のマイナス面を指す言葉が、無限と思えるほど多々ある現実。
少しずつでも薄れ、やがてなくなることを祈念したい。

踏み出す勇気を持っていたい

ひとり親家庭は、抱えている問題が複雑化しやすい。「私はここにいる」と胸を張って生きることができたら、今よりも一歩前へ踏み出すことができたら、きっと、絡まった問題の糸はほぐれていくはず。待っているだけでは何も変わらない。踏み出した先にある、人との繋がりや支援は、生きていくための命綱となるだろう。今こそ一歩前へ !!

自分の価値観だけではかるのは、危険です

認め合う！　この行為は、対等の関係を構築することであり、人間関係の第一歩です。認め合うことさえできれば、この地球上のすべて紛争も解決できるでしょう。それができないから人間は、やっかいです。自分たちの価値観を優先し、絶対視するところに問題が潜むようです。まずは、自分の価値基準だけに捉われず、他者を理解する余裕を持ちたいと思っています。

あざれあ図書室から おすすめの本を紹介します！

『LGBTってなんだろう?:からだの性・こころの性・好きになる性』
（薬師実芳ほか　合同出版　2014年）

LGBT（同性愛者・性同一性障害などの性的マイノリティ）の子どもたちに寄り添うための本です。基本的な知識から学校の設備や行事などに対する子どもたちの生の声を紹介しています。

『境界を生きる:性と生のはざまで』
（毎日新聞「境界を生きる」取材班　毎日新聞社　2013年）

性分化疾患と性同一性障害の当事者やその家族を取材したものです。多様な性への理解が進まないなか、当事者やその家族はどんな現実に直面し、どんな想いを抱えているのかがわかる本です。

『タンタンタンゴはパパふたり』
（ジャスティン・リチャードソン、ピーター・パーネル‖文　ヘンリー・コール‖絵
ポット出版　2008年）

男の子ペンギン、ロイとシロはいつも仲良く一緒です。ある日、2匹のペンギンは、ほかのペンギンと同じように、カップルになり…。ニューヨークの動物園で本当にあったお話です。

利用案内

貸出：図書5冊、ビデオ・DVD2本（2週間）
＊貸出カードが必要です。現住所、生年月日を確認できる身分証明書をお持ちのうえ、カウンターにてお申込みください。
開室時間：平日9:00～18:00、土日祝9:00～17:00
休室日：第1・3・5日曜日、図書整理日
TEL：054-255-8763　FAX：054-255-8759

編集員募集

募集人員 / 若干名
仕事内容 / 情報誌「ねっとわぁく」（年1～2回発行）の企画・取材・原稿案の作成・編集から発行まで
作業会場 / 静岡県男女共同参画センターあざれあ
募集締切 / 平成28年4月10日（日）まで
応募書類 / 応募用紙、作文「私のつくりたい男女共同参画情報誌」（1000字以内）で選考
そ の 他 /1号発行につき3万円。別途、会議や取材などの交通費支給
問合せ先 / あざれあ交流会議グループ　TEL　054-250-8147
E-mail　info@azarea-navi.jp

編集後記

写真　前列左から　永島京子　齋藤典子　國井良子
後列左から　園部真由美　海野陽子　黒田麻紀子

●カナダのトルドー新首相が、新内閣を男女同数にした。男女同数にした理由を記者会見で問われ、言った言葉が「2015年だから」。カッコ良すぎると話題になった。同じ2015年、「家制度」が残る夫婦別姓が最高裁で争われ、「憲法違反」とならなかった日本。余りにも違いすぎる。　（編集長　齋藤典子）

●読者は唯一無二の存在、それぞれが多様性な生き方。
『多様性を認め合う社会』＝あなた自身と他人が共に敬仰思慮すること。
読者自身の心＝息、相手の心＝想い、と書く。
ん?・・・つまり当たり前のことじゃん!
さぁ、気軽にはじめましょう、お互いに♪　（海野陽子）

●テーマは重く問題は深い。できれば目を背けたままでいたい。今回は生みの苦しみを味わいました。違いを認め合って生きていくということは、実際は簡単なようで難しい。「みんな違っていていいんだよ」シンプルに一言!!　多くの方に伝わりますように。　（國井良子）

●今、「サードプレイス」という言葉が私の中で気になっています。「多様性を認め合う社会」にきっと欠かせない新しい居場所として。今回のテーマに取り組むことで、その必要性をますます強く感じています。これは、行動を起こす時が来ているのかも。
（黒田麻紀子）

●子育て・大学生活・地域活動・妊娠という大嵐の1年を乗り越えられたのも、支えてくれた先生・仲間・家族の存在あってこそ。ねっとわぁく編集もたった数回の会議の困難をメールと信頼で紡ぎました。今号をお届け出来る感謝の気持ちに添えて。　（園部真由美）

●文章を書くことは、難しい。日頃、書き慣れていないので、話し言葉になってしまった。誰かに何かを伝えることは、よっぽど覚悟して始めなければ、ふとした拍子に文がくずれてしまう。日本語の難しさを久々に実感した。　（永島京子）

ねっとわぁく

2016/2/29 Vol.66

「ねっとわぁく」は年1～2回発行します。県民生活センター、県内の男女共同参画センター、市町役場、公民館などの公共施設で配布しています。会社や友人にもぜひ回覧してください。

発行日/平成28年2月29日
企画・編集・発行/あざれあ交流会議グループ
〒422-8063　静岡市駿河区馬渕1丁目17-1
TEL/054-250-8147　FAX/054-251-5085

編集長/齋藤典子
編集員/海野陽子、國井良子、黒田麻紀子、園部真由美、永島京子
表紙デザイン/ニューフィールズ・ティモシ
イラスト/置塩碧（静岡大学人文学部言語文化学科4年）
印刷/星光社印刷株式会社